

高松学習館運営協議会（令和4年12月）会議録概要

開催日時 令和4年12月21日（水曜日）午前9時30分～午前11時

開催場所 高松学習館 第1教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学名誉教授）

吉田理恵（立川市社会福祉協議会）

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

服部裕美（高松児童館）

橋本登（立川市市民交流大学推進委員会）

栗原政子（学習館利用団体）

難波敦子（学習館利用団体）

欠席 3名

[事務局] 榛澤尚武（高松学習館係長）、富田瑞代（会計年度職員）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

議事

1. 会長あいさつ 皆さん、おはようございます。最近急に寒くなっている。天候等の影響も意識しながら事業実施に向けて話し合っていきたい。本日は学芸大学の倉持先生、高橋さん、市民リーダーの芝原さんにご出席いただいている。

2. 報告事項

- ・事務局より下記について報告があった。
- ・地運協交流会(11/25実施)について 交流会欠席者への資料配布をした。参加した委員から感想があった。
 - ・すごく勉強になった。地域学校コーディネーターは地域と一体となって学習の場をコーディネートする役割。社会福祉協議会では学校と福祉教育を実施しているので共通する部分があると思う。
 - ・内容的にとっても良かった。年2回開催してほしい。西砂の方達はよく勉強してだいぶ取り組んでいる。まだついていけない学習館が多い。学社一体の原点に戻って一緒にスタートできるといいと思う。倉持先生の講評はポイントをついていて素晴らしかった。生涯学習の先生の考え方や物の捉え方を伺えてとても勉強になった。
 - ・西砂学習館はすごい。地域の皆さんのことを思っている人達がいる。西砂はとても幸せな町だと思う。校長先生にお会いする機会がない。どうやったらお会いできるのか、お会いして何かお手伝いできることがないか伺いできたらと思う。そういう機会を持てるようお願いしたい。高松でも地域に根ざしたものができればいいなと思う。すごく刺激になった。
 - ・最近ではコロナ禍で懇親会のような学校側と交流する機会がなくなっ

ている。錦学習館運営協議会は市川会長が地域学校コーディネーターで青少健の委員もされているので自然に学校とつながっている。西砂学習館運営協議会の大橋会長は地域との連携やつながりに取り組んでいるからこそ壁にぶつかっているとされていた。それだけの努力をされている。他の学習館との格差を感じる。学識の先生からアドバイスをいただいて少しずつでも改革していけたらと思う。

- ・ たかまつクリスマスお楽しみ会（12月）について
高松児童館、図書館、学習館三館合同事業として例年実施している。映画会の上映作品は児童館の子ども達の投票で決定している。
12/10 映画会は子ども 20 人、大人 10 人の計 31 人参加、12/11 おはなし会は 14 人、12/18 乳幼児向けおはなし会は 11 人の参加だった。

3. 協議事項

(1) 前回議事録（案）について 承認された。

(2) 高松学習館の取り組みについて

- ・ 令和 4 年度地域活性化事業
1/14 新春たかまつ落語会の当日スタッフについて確認した。
司会：梅田会長、受付：難波副会長、結城委員、午後 1 時集合
- ・ 東京学芸大学との連携事業「冬のおもいでたかまつり～お正月を楽しんじゃ王」実施に向けて協議した。
 - ・ 事務局より申込受付状況について説明があった。当日は午前 8 時 10 分に学習館 1F の自動ドアを開ける。
 - ・ 学生作成の PR ポスターは高松町、栄町、曙町の自治会の掲示板に掲示していただいている。
 - ・ 学生より会場レイアウト、当日スタッフの担当、当日タイムスケジュール等に関して提案と説明があった。学生作成の当日参加者に配布するパンフレット、アンケート、お手玉の作り方の内容を確認した。事業当日の運営体制について協議した。最後に参加の子ども達にメダルを渡す。福笑いとだるま落としは学生中心で運営する。
 - ・ 「書初め」の芝原講師（市民リーダー）より当日の会場の配置と講座の流れについて説明があった。必要備品について再確認した。
全ての机の上には新聞紙を敷いて床には濡れ雑巾を用意する。
保護者同伴の未就学児については、定員がいっぱいでなければ参加可能、または隣の机で書いてもらえるように講師が対応くれることになった。講師の生徒にも応援の声をかけていただく予定。
 - ・ 市民リーダー会より応援メンバーが 2～3 人来てくれる予定。
 - ・ お手玉は高松パッチワーク友の会から 3 人指導に来てくれる。
 - ・ 当日応援可能な委員の再確認をした。梅田会長、難波副会長、吉田委員の 3 人。
 - ・ 学生の応援は現在 4 人確保しており、あと 2～3 人募集する。
当日お休みのスタッフが出ることを想定して多めに応援を依頼する。

- ・ 事務局が車で学生が製作中の備品等（だるま落とし、福笑い、展示）を事前に運搬する。
- ・ 参加者、保護者、スタッフ名札をシールで用意する。
- ・ 来年度事業の企画案について
 - ・ 防災講座の企画について 事務局で防災課の方に課題やニーズを問合せしている。社会福祉協議会とも調整していくことを検討している。
 - ・ シリーズで実施するなど、他の館の実施内容を参考にしながら何回か集まり交流する機会を提供することで周辺住民が防災への意識を高め、住民同士のつながりと協力体制を強くすることができる。
 - ・ 自治会で災害時要援護者に関する情報を保持している所もあるが、高松町の自治会は持たないでいるようだ。
 - ・ 高松地域の住民は新しく入れ替わってきている。若い世代の自治会加入数は減少傾向にあり、昔のような地域の人と人のつながりがなくなっている。町会の実態がわかりにくい。
 - ・ 西砂地域は新しく来た住民に向けて、西砂を知ろうという講座を実施している。古くからの住民だけの町から様子が変わってきている。
 - ・ 西砂地域と異なり、地域に属さなくても個々に生活している。
 - ・ 昔は競輪場周辺対策のパトロールを行い課題もあったが、今はバスで移動しゴミも出ない。地域課題ではなくなってきているが、高松地域は古い建物が密集しているので火災危険度ランキングは上位に入る。こういう危険があるよということを知らしめるだけでも防災意識向上に効果があると思う。

(3) その他

- ・ 生涯学習関係職員研修会：令和5年1月17日(金)午後2時 市役所出席者について確認した。梅田会長、難波副会長、橋本委員が出席予定。講師は東京学芸大学の倉持准教授。
- ・ 第59回東京都公民館研究大会：令和5年2月4日(土)午後1時メールで事前に連絡済み。梅田会長と学習館職員が参加。
- ・ 生涯学習推進審議会での研修出席時に交通費等の補助がないか尋ねた。予算的なことがあるので、センター長から検討するとの回答だった。
- ・ 次回の開催日：1月25日(水)午前9時30分～11時
- ・ 今後の開催予定(第4水曜午前)：2/22・3/22・4/26・5/24・6/28・7/26・8/23・9/27・10/25・11/22・12/20 令和6年1/24・2/28・3/27
*祝日と年末は第3水曜日

4. 地域課題共有

- ・ 社会福祉協議会より「重なりあうまちづくり」～立川市地域共生社会推進講演会～についてPRちらし配布と案内があった。
地域で生活にお困りの方に3月まで社会福祉協議会が窓口として食料品の配布を行っている。

- ・ 高松児童館より 1/8（日）午後にお正月あそびを開催する。お手玉の会の方々を講師にお手玉あそび、羽根つきラリー大会、かるた大会を実施する。当日受付となっている。
- ・ 本日の会議の中で防災に対する自治会のあり方の話があったが、立川市内でも地域により温度差があると感じた。地域としてどのように子どもを見守っていくのか。校長先生のお顔がわからないという話もあった。コロナ禍でなかなかそういった機会がないかもしれないが、どこかパイプがつまっているような気がしている。学社一体での地域づくりを目指している中で地域学校協働本部でも子どもの居場所、コミュニティスクールの本格化、少子化など取り組んでいるが、都市部と地方によって状況が異なってくる。都市部より地方の方が地域体制はしっかりしている。都市部では横の連携がとれないなどいろいろな事例が出ている。働き方改革で教員の部活担当、特に専門職でない先生にとっては1人1人の負担が大きい。子どもが少なくなると、気がつけば子どもが置いてきぼりになっている。地域の方々が部活動の指導者になっている。地域とどのようにコラボレーションするのか。これからどんどん課題が出て来る。自治会が崩壊寸前なら地域のつながりが希薄になる。地域の現状の把握と分析を今からできるところから少しずつキャッチボールをしていくべき。学習館も地域の拠点ではなく単に貸館業務だけに終わってしまう。学習館事業について学校がどのように後押しをしてくださるのか。校長先生が地域に目を向けてくれれば地域が変わってくる。校長先生と自由に意見交換できるような場があるといい。地域学校コーディネーターがそういった役割をわかってくれるといい。先生方と交流をして地域課題を持って帰って動いてくれればいいが、人によって温度差が出てしまう。

以上